



～ 浦高への推薦入試願書受付 ～

いよいよ高校入試の時節を迎えました。1月15・16日に推薦入学の願書受付が行われ、本県中学校24校から合計158名の応募がありました。昨年度と比較すると14名の増で、通学区外から12名、離島からも4名の応募があり、浦添高校の不動の人気が窺えます。浦高の推薦入学募集人員は100名なので競争倍率は1.58倍となり、受検生にとっては大変厳しい倍率になりました。

たくさんの応募があるという結果から、日頃の学校の活動が認知されているという嬉しさと、その期待に添えていくという大変な責任を感じています。また、次代の浦添高校を支え発展させていく人材を厳正に選考しなければならない緊張感でいっぱいです。

さて、生徒のみなさんはこの応募者数を見てどう感じるだろうか。浦添高校は毎年のように高倍率を堅持しています。みなさんはそういう中で浦添高校に入学してきたことになり。その当時のことを思い出してみてください。あこがれの浦添高校に入学できるか、緊張感でいっぱいだったと思います。そして今、同じ思いをしているみなさんの後輩になる中学生が頑張っています。もしかしたら、弟や妹または親戚や中学校の親しい後輩もいることでしょうか。是非心からの応援をお願いします。



ともかくも、伝統ある浦添高校を我々はますます発展していかなければなりません。これまで支えてきた同窓会、後援会、PTA及び地域のみなさま等に感謝の気持ちを忘れることなく、職員、生徒一丸となって進化を続け、さらなる高みをめざし頑張っていきましょう。

校長

● センター試験終了 ●

大学入試センター試験が1月13・14日に行われました。前日まではいよいよ寒波に見舞われ、南国沖縄も身の縮む寒さでしたが、当日は天気にも恵まれました。

進路指導部や3年担任の先生方も応援のために早朝から会場に駆けつけていただきました。私は沖国大会場、教頭2人も琉大会場に行き、激励してきました。果敢に挑戦する浦高生を見ると何とも頼もしく、夢に向かって頑張っている姿が美しく感じられました。



翌15日に自己採点を行いました。受験生それぞれの出来映えは異なりますが、結果を真摯に受け止め次の対策を打てなければなりません。思い通りの点数が取れていても悔いはありません。また、逆に失敗したと思っている生徒も落ち込むことはありません。勝負はまだ終わっていません。

勝負は最後の最後まで分かりません。これからは精神力の闘いです。

*** 校長雑感 ***

高校時代と体質が変わった。足つま先が汗っぽい。手の指先が乾燥している。冬になると身体がかゆい。歯がグラついてる。髪の毛が生えない。(ハゲではない。生えないだけ。)膝が痛い。股関節が痛い。とにかく寒い。高校時代には無かったことだ。まさか自分にこういうことが起こるとは思わなかった。もしかしたら君たちもそうなるかもよ。(笑)

～～～ 時の言葉 ～～～

逆境は嫌いじゃない。
それを乗り越えた先にある景色は
絶対にいいはずだと信じている



羽生 結弦
(フィギュアスケート選手)

誰もが知っている羽生結弦選手の言葉です。これまで幾多の逆境にあっても、それを乗り越えて結果を残してきました。

彼のやさしい笑顔からは想像もつかない強い信念とどんなことにもへこたれない精神力の強さを感じます。

校長

～感動のラグビー大会～

ラグビーの新人大会が名護の21世紀の森運動公園でありました。浦高のラグビー部は5名なので、嘉手納、北中城高校との合同チームでの参加でした。20日の対戦相手は強豪名護高校で、さすがに圧倒されて敗れはしたものの、合同チームにもかかわらず、みんなが協力してナイスプレーの連続でした。

特に感動したのは強豪相手に果敢にタックルを繰り返す選手達の姿です。走ってくる相手にこちらでも加速をつけて突っ込んでいくのは大変危険であるし、覚悟が必要です。お互いぶつかる時に「バチッ」と音が響きます。この鈍い音は日頃の鍛錬の成果だと思いました。感動をありがとう。 校長